

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

ご当地牛乳・
乳飲料飲み比べ
イベントを開催
(酪農部)

5面

上海特集
5、6月に食品・
農業関係イベント
(全農(上海)貿易有限公司)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

東京で「ちち」牛乳・乳飲料飲み比べイベントを開催

父の日に牛乳を楽しんでもらおう

酪農部



クイズに当たるとグッズがもらえる酪農クイズは大盛り上がり。左から酪農家の長崎さん、関さん



飲み比べサーバーにはミルクマイスター®高砂さん(写真右)による味のチャート図とコメントを展示

梅雨晴れの中、開店前から多くの牛乳ファンが集まり「飲み比べ」は最長1時間待ちの大盛況となりました。準備した牛乳・乳飲料は、北海道から九州までの農系乳業9社から14種類計400品。来場者は初めての牛乳を試したり、産地や製法によって違う味を楽しんだり、物販コーナーでお土産を購入したりと「ちちの日」を満喫していました。

また、千葉県の加茂牧場の長崎清子さん、群馬県の関牧場の関千鶴さん出題の酪農クイズやバター作り体験では、来場者が楽しく酪農や牛乳について学びました。生産コストの高止まりや、度重なる物価上昇による牛乳・乳製品の需要低迷など酪農業界は厳しい状況が続いています。酪農部では引き続き農系乳業と連携し、酪農の理解醸成や消費拡大に努めていきます。

全農は、牛乳のおいしさや味の違いを知ってもらうことで、酪農への理解や消費拡大につなげることを目的に6月18日、父の日に「牛乳を思い切り楽しもう」を企画。JA東京アグリパーク(渋谷区)で全国14種類のご当地牛乳・乳飲料の飲み比べイベントを開催しました。

「元気わくわくキッズプロジェクト」9年目

第1弾はJ2選手と子どもたちが田植えなど体験

秋田県本部



プロジェクトに参加した子どもたちとブラウブリッツ秋田の選手たち



子どもたちは笑顔で田植えを体験

田植え体験では、はだしになった子どもたちと、同クラブの諸岡裕人選手、藤田雄士選手、ウオーモハメッド選手が「あきたこまち」の苗を手植えしました。ぬかるむ田んぼに足をとられ転倒し泥だらけになる子もいました。目に合わせ一生懸命苗を植え、選手と子どもたちの笑い声であふれていました。田植えのほか、花の寄せ植え、炊

きたての「あきたこまち」でおにぎりづくりなどを体験しました。県本部担当者は「農業体験を通じて普段口になっている食べ物や育つ環境への理解を深めてもらいたい。自分で料理をして食べることで好き嫌いをなくし、食べ物を大切にする意識をもって成長してほしい」と話しました。秋には第2弾として、実った稲の収穫体験をする予定です。

秋田県本部とサッカーJ2リーグのブラウブリッツ秋田が、「次世代を担う子どもたちの健全な育成」を目的に開催している「元気わくわくキッズプロジェクト」は今年で9年目となります。今年の第1弾として6月3日、小学生18人と保護者12人が秋田市の「農事組合法人かみさんない」の田んぼで田植えをしました。

人気投票でNo.1“推し丼”決定

ぐるなびなどと連携、「ドンドン笑丼フェア」開催中

米穀部

全農は「おこめ食べて笑おう」プロジェクトの一環として、(株)ぐるなびなどと連携した「ドンドン笑丼フェア」を7月3日から8月31日まで開催中です。



フェアでは、ぐるなび登録店舗7万店や三菱地所テナントなどに丼メニューの提供・強化を呼びかけるほか、全国の飲食店舗のうち「丼コンテスト」にエントリーした約600丼を特設サイトで公開。期間中に消費者からの人気投票を行い、六つの部門賞と総合大賞を決定し、表彰します。さらに、「推し丼」を実際に食べてツイッターに投稿した方から抽選で、産地協賛のお米などをプレゼントします。

外食業界において、オペレーションの軽減につながる丼メニューの提供は人手不足の解消に役立つほか、インバウンド需要が復調するなか、「Donburri」は外国人にも人気があり、今後も丼メニューの拡大・定着が期待されます。さらに丼メニューで使用されるお米の量は定食と比較すると約1.6倍で、丼メニューの提供増はお米の消費拡大にも直結します。ぜひ、「推し丼」を食べに飲食店に足を運んでみてください。

「ドンドン笑丼フェア」のポスター



JA Zenroh Weekly

ニュース&トピックス

令和5年度全農役員海外視察を実施

カナダ・米国で肥料原料鉱山、穀物関連施設など視察

総務人事部

全農は、5年ぶりとなる役員海外視察（4月19～26日、5月24～31日の2班制）をカナダ・米国で実施しました。合計20人の役員が参加し、全農の海外事業の取り組みを実地確認し見識を深めました。



カンポテックス本社を訪問した4月班参加者

カナダでは、全農の塩化カリ購入の最大の取引先であるカンポテックス社を訪問しました。地下1000m級の採掘現場では、鉱脈を10台の採掘機で作業。うち3台は地上から遠隔操作を行っています。同社からは、50年以上にわたり友好関係を構築してきたことへの謝辞とともに、今後も安定供給を行うとの力強い発言がありました。また、グレイ



全農グレインのエレベーターを視察した5月班参加者

ズコネクト・カナダ・オペレーションズ(株)では穀物集荷施設を視察しました。米国では、全農グレイン(株)・CGBエンタープライズ(株)を訪問し、穀物の集荷から輸出までの一連の流れを視察しました。全農グレインは、単一の穀物エレベーターとしては世界最大級の取扱量を誇り、昨年には本船の衝突を防止するパネルを設置しました。安全かつ効率的に船積みを行い、飼料原料の安定供給に努めています。

「どきどき収穫祭」初夏に初開催

トラック市に生産者の新鮮野菜が大集合

茨城県本部

にぎわったトラック市



わいきました。

トラック市では、13台の軽トラックに22人の生産者がお店。新鮮な野菜や加工品が並び、にぎわいました。

秋に行っていた「どきどき収穫祭」を、今年は初めて初夏にも開き、年2回の実施としました。ポケットファームどきどき茨城町店敷地内に特設会場を設けました。トラック市、シンガーソングライター磯山純さんのライブ、手のひらで推定野菜摂取量が分かる「ベジチェック」体験コーナー、SDGs（持続可能な開発目標）クイズラリー、水戸葵陵高校の書道パフォーマンス、明秀日立高校のダンスパフォーマンスなどを実施しました。

茨城県本部は6月18日、いばらきコープ生活協同組合と共催で「届け！旬の味、いばらきの味!!初夏のどきどき収穫祭2023」を開催しました。来場者に地域農業の振興と「国消国産」運動について、理解を深めてもらうことが狙いです。

コスト低減へ農業機械実演展示会

農機・肥料・農薬メーカー42社が出展

岩手県本部

心に聞く来場者



す。

JAいわてグループでは、引き続き、生産コスト低減に向けた技術の普及に取り組んでいきます。

JAグループの農業機械・肥料・農薬取り扱いメーカー42社が出展し、農業機械の展示や、肥料・農薬などの相談コーナーを設けました。また今回より新たに「みどりの食料システム戦略」に関するコーナーも設置し、環境に配慮した技術を紹介しました。

展示会は「生産者手取り最大化のための機械提案」をテーマに、農業機械コストの低減、作業効率化に向けたICT農業機械、産地振興に向けた園芸用機械などの各提案を行いました。岩手県本部は6月10、11日にJAいわて花巻本店駐車場特設会場でJA農業機械実演展示会を開きました。2日間で延べ1675人の来場者でにぎわいました。

令和版ばら寿司「晴寿司」が誕生

郷土料理を継承 県産農畜水産物の消費拡大へ

岡山県本部

配る関係者



取り組みます。

県本部は、郷土料理を新しい形で継承することで、地域活性化を指すとともに、県産品の消費拡大とPRに取り組みます。

6月1日には、商工会議所が同推進会議協力のもと岡山駅で「晴寿司」300個を無料配布。同日の「岡山市民の日」を祝うとともに、駅利用者にもPRしました。

岡山県本部を含むJAグループ岡山、岡山県、岡山商工会議所など地元21団体で構成される晴寿司ブランド推進会議は5月31日、岡山市で、令和版ばら寿司「晴寿司」の販売開始を発表しました。

上海特集

5・6月に食品・農業関係イベント

ゼロコロナ政策明けで多数の中国関係者 日本産売り込み、肥料原料調達へ情報交換も

国際食品展示会

「SIAL上海2023」

5月18～20日に上海で開催された中国最大規模の国際食品展示会「SIAL上海2023」に出展しました。昨年はゼロコロナ政策のため、開催中止となりましたが、2年ぶりに開かれた本展示会

には、世界67カ国から約4500社が出展し、38の海外視察代表団を含めた12万人以上が来場しました。



中国最大規模の国際食品展示会「SIAL上海2023」

J A全農インターナショナル(株)からは輸出担当者4年ぶりに中国出張。新潟、石川、三重県産米のほか、J Aわかやまのジンジャーエール、ジェイエイフーズおおいのかぼすハイボールシリーズなど多くの加工品を展示して、試飲・試食を通して来場者にPRしました。また期間中、農林水産省が上海市内で開催した中国輸出支援プラットフォームの立ち上げ式に参加し、展示会場でも関係者との意見交換を行いました。

中国国際農業用化学品・ 植物保護展覧会(CAC)

5月23～25日に上海で開催された「中国国際農業用化学品・植物保護展覧会(CAC)」を視察して、中国の各肥料メーカーと面談しました。同時期に欧州で国際肥料協会の総会が開催されたため、大手メーカーは分担して参

加していました。展覧会は昨年ロックダウンで見送りとなったため2年ぶりの開催となり、中国国内から大勢の業界関係者が集まりました。

肥料農業や農業機械種子関連を含め10万平方メートルの会場に1775社が



CAC「益福集団」のブースで打ち合わせ

ブース出展。当社は、全農が出資しているリン酸肥料工場の親会社である「益福集団」の関係者など肥料原料メーカーと打ち合わせを行いました。各社の生産状況のほか、各地の輸出制限に関する情勢交換を行い、肥料原料の安定調達につなげるため、最新の情報を収集しました。

日本食品展示商談会

6月8日に北京で開催されたJETRO北京と北京フード会などが主催する「日本食品展示商談会」に参加しました。ゼロコロナ政策が明けてから初めて本格開催されたB to B(企業間取引)商談会となり、会場は食品販

売代理商、飲食店、流通関係者など過去最多の1000人以上の来場者で大にぎわいとなりました。

全農北京事務所のほか、農林中金北京事務所からも現場対応のサポートを得て、コロナ禍で上海からなかなか手が届かなかった華北地区への本格営業の足掛かりとなりました。日本産米や酒類・飲料など多くの引き合いがあり、有意義な商談会となりました。また、ブースではSIAL上海と同様に、石川佳純さんが出演する全農テレビCM「つながる食卓(中国語字幕付き)」を放映し、多くの注目を集めました。



日本産米や酒類・飲料などが好評だった日本食品展示商談会

全農(上海)貿易有限公司が5月から6月にかけて現地中国で参加したイベントと活動について、「全農上海特集」として紹介します。
【全農(上海)貿易有限公司】

手取り最大化と国産野菜の生産維持・拡大を目指して

「ゆめファーム全農プロジェクト」の成果とロックウール養液栽培の特徴

「ゆめファーム全農プロジェクト」は自ら実証した栽培技術と園芸用ハウス資材をパッケージ提供することを目指し、2014年にスタートしたプロジェクトです。環境制御技術などの最先端技術を導入した高軒高・高機能ハウスを全農自らが設置し、安定・多収栽培技術の実証に取り組んでいます。【耕種総合対策部】

ゆめファーム全農とちぎでは、トマトで10㎡当たり40トと慣行の約2倍、ゆめファーム全農こうちではナスで同35トと全国平均

の約2・6倍、ゆめファーム全農SAGAではキュウリで同56トと全国平均の約4倍の収量を記録しました。



高軒高・高機能ハウスでのトマト栽培



トマト栽培でのロックウール培地

これらの成果をもとに、栽培品目に対する汎用性が高く、高収量が達成可能なフルスペック温室とロックウール養液栽培を共通仕様とし、①人材育成②温室建設(施主代行)③栽培支援コンサル——の三つを軸に、温室建設から栽培サポートまで一貫した「ゆめファーム全農パッケージ」を提供することが可能となりました。直近では佐賀県内で2件の導入実績があり、今

後も施設園芸生産者の手取り最大化と国産野菜の生産維持・拡大のため、普及を進めていきます。

同パッケージでは、栽培する場所が異なっても根圏環境の再現性と栽培品目に対する汎用性が高いロックウール培地を使用しています。ロックウールとは玄武岩を繊維状にした無機成分からなる工業製品であるため、品質が一定で肥料成分や水分量のコントロールが容易な製品です。このロックウール培地を使用することで、根圏*環境(水分量、pH、EC、温度など)を数値的に把握することが可能となり、植物の生育にとって理想的な栽培ができるようになります。

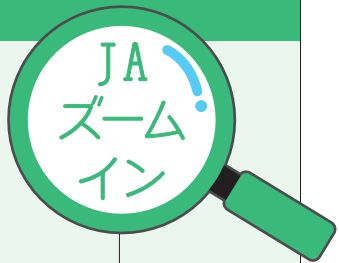
*根の近傍・養分、水分の吸収や炭酸ガスの生成、微生物の活動などが行われる植物の生育に必要な土壌空間



Ridder 社のかん水装置

トマトの栽培実証を行っている、ゆめファーム全農とちぎでは、22年8月から温室の基本構造はそのままだに、土耕栽培からロックウール養液栽培が可能なら施設へ改修し、Ridder社の自動かん水装置を導入して養液栽培を開始しました。これまでに土耕栽培を通じて蓄積してきた高収量を達成するための管理手法を生かし、養液栽培に合った品種・台木・仕立て方・肥料・かん水・環境制御・作業管理などを検証しています。

同じ農場と品種であっても、土耕栽培と養液栽培とでは生育が大きく異なります。今後の運営を通して、ロックウール養液栽培における基本的な栽培管理項目をスケジュール化し、栽培体系を確立していきます。さらに得られたデータ・ノウハウを蓄積・分析し、手取り最大化へ向けた実証に取り組んでいきます。



世界へニシキゴイの魅力発信

JA錦鯉市場で年間30回競り

J A越後おぢやは、新潟県のほぼ中央、小千谷市で事業を展開しています。日本一の大河・信濃川が市の中央を流れます。全国でも有数の豪雪地帯で、雪解け水と信濃川水系などの恵みを受けた稲作や、スイカ、メロン、カリフラワーなど園芸も盛んな地域です。



競りが行われる錦鯉市場

泳ぐ宝石「ニシキゴイ」

雪解けが進んだ4月。JAの錦鯉市場ではニシキゴイの初競りが始まります。生産者が丹精込めて育てたニシキゴイは「舟」と呼ばれる青いケースで、市場内の水路に運ばれます。番台の掛け声の下、買い付け人は次々とニシキゴイを競り落とします。

ニシキゴイは「泳ぐ宝石」とも呼ばれ、新潟県の鑑賞魚※にも指定されています。中山間地で水を確保するために、湧水や横井戸、雪解け水の利用や、冬期湛水、湯水時には養鯉用の水を稲作に回す仕組みなど、環境に適応した伝統的で独特な技術や知見は「雪の恵みを生か



競りを待つニシキゴイの「舟」

した稲作・養鯉システム」として2016年に日本農業遺産に認定されました。錦鯉市場では11月までの金曜日に開場し、年間約30回の競りを行っています。

※一般的には「観賞魚」と表記しますが、美術的な価値があるという意味を含め、鑑賞の文字を使用しています。

色上げ飼料の決定版「東山レッド」

小千谷市の生産者とJAグループが共同開発した色上げ飼料「東山レッド」。色

JA越後おぢや(新潟県)



生産者に丹精込めて育てられたニシキゴイ



上げ、発育、消化率をベストにするため原料を精選し、かつ合理的に配合しています。この飼料により、鮮やかな色彩のニシキゴイに仕上げる事ができます。県内の生産者をはじめ、全国の多くの方に愛用されています。

バスツアーでニシキゴイをPR

名鉄観光サービス(株)が同市をPRするために8月ご

ろから実施予定の日帰りバスツアーでは、JAの錦鯉市場をコースに取り入れられます。錦鯉市場を観光で一般公開するのは初めてです。バスツアーでは、錦鯉市場で行われている活気あふれる競りの見学やJA管内の特産品の販売を行います。競りの流れや、買い付け人が値段を示す手の動きを解説することで錦鯉市場について興味を持ってもらい、楽しんで帰ってもらえるようなバスツアーを準備しています。

海外からも注目されているニシキゴイを多くの人に知ってもらい、日本国内や海外に向けてさらなるニシキゴイの魅力発信に取り組んでいきます。

概要	2023年5月31日現在
正組合員数	3411人
准組合員数	4422人
職員数	131人(正職員数)
販売品取扱高	3億6千万円
購買品取扱高	4億4千万円
貯金残高	633億8千万円
長期共済保有高	2125億6千万円
主な農畜産物	米、カリフラワー、メロン、スイカ、ニンジン



「みずみずしく柔らかい、夏のアスパラガスフェア」

九州の主産地からお届け 7月31日まで17店舗

全農は直営飲食店舗(17店舗)で7月31日まで「九州産アスパラガス主産県協議会」とのコラボレーション企画「みずみずしく柔らかい、夏のアスパラガスフェア」を開催しています。

【フードマーケット事業部】

フェアでは、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分県の5産地がリレー出荷する旬のアスパラガスをサンドイッチや惣菜など素材のおいしさを生かしたさまざまなメニューにアレンジして提供します。九州産アスパラガスは、JA全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」でも購入いただけます。



購入はこちら

メニュー提供概要

期間：7月7日(金)~7月31日(月) 実施店舗：17店舗

- ①みのりカフェ三越銀座店
- ②みのる食堂三越銀座店
- ③みのりみのるチキン 二子玉川東急フードショー店
- ④和牛とごはん 焼肉じゅん枚方市役所前店
- ⑤みのりカフェ アミュプラザ博多店
- ⑥みのる食堂 アミュプラザ熊本店
- ⑦みのりカフェ季楽 コムボックス佐賀駅前店
- ⑧みのりカフェ長崎駅前
- ⑨焼肉びゅあ 神田店
- ⑩焼肉びゅあ 品川店
- ⑪焼肉びゅあ 池袋店
- ⑫焼肉びゅあ 北千住マルイ店
- ⑬焼肉びゅあ マルイ溝口店
- ⑭焼肉・すき焼き純 梅田本店
- ⑮焼肉・すき焼き純 エビスタ西宮店
- ⑯焼肉・すき焼き純 天神警固店
- ⑰新鮮ほるもん式日市亭



~九州産アスパラガス入り~
大豆ミートとチーズのキーマカレーホットサンド670円(税込)
込み) (みのりカフェ銀座店)

みのりみのる店舗について



焼き肉店舗について



全国のおいしい日本酒を1合缶でお届け

日本酒ブランド「一合缶®」とニッポンエールがコラボ

全農は、全国100種類の日本酒缶の充填や販売を行う(株)Agnavi※、JAグループ全国組織8団体で立ち上げた(一社) AgVenture Labと連携し、各銘柄の日本酒を1合(180ミリリットル)の缶にした「一合缶®×ニッポンエール」のコラボ商品を開発しました。全国47都道府県での展開を目指し、第1弾として関東6都県6銘柄を7月から一般販売します。

【営業開発部】

アルコール飲料の多様化などを背景に、日本酒の消費量は年々減少しています。そこで日本酒のおいしさをより多くの人に知ってもらうため「適量・オシャレ・持ち運びベンリ」を実現した一合缶とニッポンエールがコラボしました。各地のおい

い日本酒を1合という量で手に取りやすく、また環境負荷も少ない缶という形で発信していきます。

全農は、47都道府県のおいしい日本酒の発信を目標とし、Agnaviとの共同開発を通じて地方創生への貢献ならびに酒米生産者と消費者の懸け橋になることを目指します。



関東の日本酒飲み比べ

※Agnaviは、AgVenture Labが運営する第4期JAアクセラレータープログラムで優秀賞を受賞したベンチャー企業です。

「一合缶®×ニッポンエール」のコラボ商品



さが風土館 季楽

生産量日本一を誇る佐賀県産のハウスミカンです。温度や水など徹底した管理のもとで栽培され、出荷時は光センサーで選別し、1玉ずつ傷が入っていないか確認してからお届けしています。

夏に食べることができるハウスミカンは、冬のミカンと比べて皮が薄く、豊かな甘みとすっきりとした酸味のバランスが絶妙です。あふれ出る爽やかでジューシーな果汁は暑い日のデザートにもぴったり。真心込めて手詰めした極上の一玉をぜひご堪能ください。



佐賀県産ハウスみかん 約2.2kg.....6800円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
7月17日号、24日号は休刊いたします。
次号は7月31日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。